



Title	沖縄関係 沖縄返還交渉 -2 (対内) (琉球立法院・大臣 (十一・十一) 外務省外交史料館レファレンス番号 : nd)
Author(s)	-
Citation	令和元年度外交記録公開 公開日 : 2019年12月25日 外務 省外交史料館管理番号 : B'5.1.0.J/U24 CD・DVD番号 : nd
Issue Date	
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/45930
Rights	外務省外交史料館所蔵資料

環球

王怡

沈

大

十

十

二

Q. アメリカ局ブリーフ (11/1日)

○リュウキェウ立法院議員の大臣表けい

今日は、リュウキェウ立法院の議長以下7名の議員団が大臣を来訪。尾団長から10月28日に採択した立法院の決議を大臣に手渡した上、本土政府のオキナワ交渉への努力を感謝するとともに、今後さらにオキナワ現地の人々の期待に応えるよう一層努力してもらいたいと述べた。大臣よりオキナワけん民の意向は十分これが実現されるよう努力しており、先般のヤラ主席との会見の際にもその旨伝えたと述べ、今までの対米交渉の結果、本土なみは安保条約及地位協定をそのまま適用することによつて確保でき、従つて事前協議も本土なみになるのだからオキナワからの自由発進はあり得ないことになるが、問題は経済問題であり、11月の首のう会談後本土政府としても現地の懸念を念頭において対処してゆくつもりだと述べられた。

議員団から、今後国政参加を早く実現してもらいたい旨及び、決議の中の3項目即ち戦後処理、本土との格差を正し、自立経済の基盤の確立について特に善処してくれるよう要望があつた。これに対し大臣より首のう会談後すべてが大きく前進する訳だから、国政参加についても、今後は日米間の問題をいふこととなく、速かに実現の方向で国会

の措置を期待したい考えである旨、また3項目の点については今後じゅう分配隠し、総理府が中心となつて復帰準備を図つていくこととしたいと述べられた。

(質問に答えて) 今日には特に核ぬきの問題は出なかつた。議員団よりオキナワ現地では、即時無条件全面返かんをとなえ、首相訪米に反対する声もあるが、けん民の大勢は訪米に少しも反対するものでないと述べ、大臣から72年の復帰ということとは実体的には即時と同じことであり、全面返かんという条件にもオキナワを分割して返かんするものでない以上応えていることになると述べ、無条件という言葉に含まれている基地ぬき、安保反対という主張には応じられないと述べられたが、核ぬきということとは特にふれなかつた。